

---

宮 嶋 怡 正

議長（村松 積） 次に、4番、宮嶋怡正君、質問許します。登壇願います。

宮嶋怡正君。

4番（宮嶋 怡正） 4番、宮嶋怡正です。

私は、先に通告をいたしました農業用水路の本格的な改修について質問をいたします。

農業の担い手が高齢化していく中、農業用水路の維持、管理が困難な状況になっています。そんな中、21年度補正の経済危機対策としての農地有効利用、支援整備事業、これは小規模農業用水路改良事業で、最大1カ所で200万円の事業であります。国が5割そして村が4割としっかり手当をしていただき、地元負担が1割ということで申し込みをした7カ所全部が組み込んでもらい、受益者の皆さん村の配慮に感謝をしているところであります。

地球温暖化と言われて久しいわけですが、今年もそうだったわけですが、ここ数年ゲリラ的な豪雨のために甚大な被害の発生やあるいは四国の水瓶と言われている早明浦ダムが、春先には水位が下がり、香川県では毎年のように一時期給水制限を余技なくされているといった報道がなされております。

異常気象が異常気象でなくなりつつある中、農業用水路は古くより先人の方々が必死の思いで築き上げ、それを今日まで営々と守り維持、管理されてきましたが、老朽化が進み、漏水箇所も多く、異常気象や少しの天候異変で水路が断たれるような状況の井水が数多くあります。

限りある水資源を守るために、農業用水路の本格的な改修を国の事業を取り入れて、村がさらに予算づけを行い、地元負担を軽減する中で、年次ごとに計画的に継続的にできるような制度作りが必要だと思っておりますが、村長のお考えを示していただきたいと思っております。

以上で私の質問を終わります。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

村長（伊藤 喜平） 宮嶋議員の質問にお答えいたします。

農業水路の整備管理についてのお話でございます。

言われたとおりでございます。これから環境の時代、美しい水、それから潤沢な水というのは非常に大事でございます。それと同時に、すべてに言えることでございますけれ

ども、昔から「湯水のごとく使う」という、その中に水が入っておったわけでございますけれども、今、村内の企業でもしかりでございますけれども、非常に水は再生して使うものだということで、コストは高くなるんですけれども、特に私ども皆さんも行って見たと思いますけれども、山岸さん、膨大な設備を作りまして、そして再循環しながら使っておっていただけるということでございまして、そういう時代になったのかなと思います。

農業水路ということでございますけれども、他村に比べて下條村は37平方キロという小さな面積でございまして、水路問題等につきましては非常に整備をされており、安泰であると。ほかに比べてみれば非常に安泰であるということでございます。

一般論、原則論、これは法治国家でございますので、一般論からあくまで申しますと、水路の維持管理というのは受益者がやるものであるという国の方針でございます。そのために水路に対する水利権、これは何人も犯すことができないなかなか厳しいものがあるわけございまして、その裏腹に水路の管理というのは基本的に受益者でやれよと。そういう中でございますけれど、これ災害を受けたとき、これは負担ほとんどゼロでございます。それから大規模改修。例えば広域にわたって今やっておるのは、竜西一貫水路なんていう、何十億ということでございますけれども、これが採択になりそうだとということで、10年くらいでやっておりました。採択になりますと国が50%、県が25%、それから該当の市町村が25%、これがだいたいのパターンでございます。この25%をどう分けるとかということが課題でございますけれども、これ政権が変わってどうなるかという問題でございます。

それとなおかつ国が「よし、オッケー」と言っても今度は県の負担の25%ができる県が受けれるか受けれないかと、先ほど申しましたようにもう200何億円しか基金もない、そして1兆5,000億円の余借金を抱えておるという中で、受けれるか受けれないかという問題も出てくるわけございまして、なかなか難しい問題でございます。

最近起きた問題でございますけれども、合原の新井水、副村長がおりますけれども、これが当事者でございまして、隧道が大規模に落盤いたしました。これはどうしようもないじゃないかということでいろいろやったんですけれども、どうしても駄目ということでございまして、550万円かかりますけれども、これ150万円村で一生懸命補助して、そしてあと400万円については、ある程度の基金を積んであっていただいたために、それ

を充当し、また当然足りないわけでございますので、団別割でやっていただいたという経緯があるわけございまして、それだけ厳しいということでございます。

私たちが今一番心配しておるのは阿智川井水でございまして、開渠の分につきましてはここに福島議員もおりますけれども、阿知原井水は本当によく材料支給事業でほとんど改修が済みました。そして今ほとんど開渠の部分は問題ないんですけれども、トンネル部分の相田でトンネルが落盤して落ちちゃったことがあるわけでございますけれども、あれがただ掘っただけの状態でございます。地番もあまり良くないということございまして、これらを注意深く。相田の場合は、もう大規模過ぎちゃって、しょうないということで国庫事業、県も一生懸命やってくれて、上からもう中へ入って行って修理ができないから、上から大きな穴を掘って、そしてコルゲートを段々埋めながら、上からそこを補修したというような形があるわけでございますけれども、まだまだあるんですけれども、計画的にどうやってやるかということになると、これはあれを端から村単で巻いていくということにもいけないわけでございますので、あそこらを注意しながら、また井水の皆さんとよく連絡とりながらやっておる次第でございます。

いいものが来たときにすぐ対応するということになりますと、今農業の行き先というのはなかなか不透明でございますけれども、ある程度の基金というのは今大変な時代でございますけれども、リッターあたりどのくらい、本当のちょっとでも基金というのを積み立てておいて、よしいぞというときにぼんと手を上げるということも必要かなということと、今度は議員ご指摘のように、農地有効利用支援整備事業なんていうことで、こんな私も17年やっておりますけれども、こんなおいしい仕事が経済対策として出たわけでございます。これは上限が決まっております、やはり300万以内か200万ということで上限が決まっておりますのでやったんですけれども、これも積極的に取り入れてご指摘のように7地域がきちっと良くなったわけでございます。

まだまだこれからあるわけでございますけれども、基本論とそれから村が本当に将来どうあるべきかということに対して、両立てでこれからも前向きにやっていくつもりでございます。

これに対しては、これからの新政権どうなるか。どうなろうとも何でも必要なものは必要なものとして私も所信の中で述べておりますけれども、正々堂々と胸張って。

ところで県まで来てどうかという問題もあるわけでございますので、できるだけそのパイプを作りながら、前向きに。この前向きにあんまり前向きというか、ちょっと本当に前向きに考えるということでご理解いただくと同時に、危ないなと思ったらぜひ材料支給で手当てするか、その情報を村に上げていただきたいということでございます。

そんなことで今の状況、政変の状況でございますので、その範囲の答弁で終わらせていただきます。

議長（村松 積） 4番、宮嶋怡正君、再質問ありましたら。

4番、宮嶋怡正君。

4番（宮嶋 怡正） ただいま村長より答弁いただいたわけであります。

終盤にきまして前向きな答弁ということでうれしく感じたわけではありますが、先ほどの前向きな答弁とは若干前向きさが違うということで、確かに政権交代で予算の組み替えなどどういった方向付けがなされるか不透明ではありますが、下條村には大小合わせて37の井水組合がありまして、その多くが漏水箇所がひどく老朽化をして、いつ途絶えても不思議でない状況のところが多々あるわけでありますので、先ほども質問いたしました、異常気象が異常気象でない状況の中で、いったん水が途絶えたら農作物に甚大な被害が出るということも合わせていただいて、村の重要施策の1つとして位置づけることが大事だと思いますが、村長の思いをお聞きいたしたいと思います。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 下條村ご承知のように、非常に水源の少ない村でございます。

乾き出すと本当に各河川、山が奥が浅いわけでございますので、からからに干上がるといふ状況よく分かっております。

それからそのために上水道、これは恩田井水が定期的に、そして本当に真剣に井水管理をして、下條に安定的に供給しておっていただけるわけでございます。

1つのうれしいことは、その井水に関して恩田井水が今度いくつかの問題点のトンネルがございます。これにつきまして阿智村は当然でございますけれども、下條と共同して危ないところはピックアップしてあるわけでございますので、またまきたてもやるようになっております。

総額で4～5億円かかるという事業でございますけれども、これもひょっとすると思

切ったように切られても困るわけでございますので、これらも積極的にやっていくつもりと同時に、言葉というのは難しいものでございまして、私が言ったらやるという性格でございますけれども、一生懸命前向きであって、住宅のは前向きは90点くらいですけれども、仮に70点の前向きというふうにとらえていただければありがたいかなと思っております。

そういうことでそのことについても、私も水経験大変な苦勞をしたこともございます。全村水道も止めたこともあるというような苦い経験もあるわけでございますので、一生懸命また皆さんのお知恵をお借りしながらやっていくと同時に、どうかできることはもう村で本当に今言うとおりのU字溝を出しましょう、重機出しましょうということでやっているわけでございます。端からだんだんやっていくとやはり希望というかめどがつくわけでございますけれども、手をこまねいて「えらいことだぞ、これはどうなるんだ」なんて言っておるとなかなかできないわけございまして、また1つそれだけの大事な井水であればあるこそ一歩踏み出すまた行動力も私たちも大いに期待しておるところでございますので、どうか指導的な立場にある宮嶋議員、一層地元の奮起を高揚させていただきたいと思っておりますので、お願いします。

議長（村松 積） 4番、宮嶋怡正君、再質問は。

4番（宮嶋 怡正） ありません。